# Ⅰ．研究の概要

## 1．研究主題・副題

**主体的に学び合う矢田野っ子の育成**

**～確かな力を身に付け、「自ら考え・聴き合い・表現する」力を育む授業を通して～**

## ２．主題・副題設定の理由

本校は，「『やさしく』『かしこく』よりよく生きる子の育成」という教育目標のもと，「知・徳・体」の調和のとれた児童の育成を目指している。

本校児童は，これまでの学力調査の結果から，全体的に基礎・基本の力が不足していること，題意を捉えて自分の考えを書いたり説明したりする力はついてきたものの，情報を取捨選択する力が不足していることが分かり，授業改善や朝学習・帯タイムを活用した学力向上に努めてきた。児童は課題に向き合い，解決しようとするものの，語彙力や叙述をもとに登場人物の行動・心情を読み取る力，自分の経験と関連づけて考える力が乏しいことが課題として挙げられる。このことから，本校児童がつけるべき力は，基礎・基本の力と，叙述をもとに想像を豊かにしながら読むことであると考え，今年度も国語科を軸に学校研究を推し進めていく。

昨年度までは，説明的文章に領域を焦点化し，「つけたい力」の系統化・明確化を重点とし，教師と児童で共有化し単元の見通しを持って学習を進めてきた。そのことにより，児童は，文章中の中心となる語や文，必要な情報を見つけたり，論の進め方について考えたりする力がついてきた。さらに，児童の力を育成していくために，３年間の小松市国語科研究の取組を活かして，今年度は，クラス会議を中心とした学級経営を基盤として，国語科の物語文教材の指導を柱として学校研究を推進していく。

基礎・基本については，日々の学習や言語活動を通して，教科独自の見方・考え方を働かせていくとともに，国語科で正確に文章を読む力や言葉による見方・考え方を働かせ適切に表現する資質・能力を育成していく。そのことを他教科と関連づけてカリキュラム・マネジメントしていくことにより，自らの学びを様々な場面で活かすことができると考える。

また，児童の思考を深めるために，授業改善に努めてきた。しかし，児童の主体的な学習の姿や話し合いの場面での，「聴き合い・表現し合う」姿までには至っていない。児童が主体的に学習していくために，教師が手立てを考えていく必要がある。そのことが，互いの意見を表現し合って，一人一人が学びに対して主体的・対話的な学習をしていくことにつながっていくと考える。

そこで，一人一人が目標達成を実感できるようにするために，物語文の読み方や読ませ方，他学年との系統性を考えて教材研究をする等，児童に基礎・基本も含めた「つけたい力」がつく授業を創り上げていくこと，児童が主体的・対話的な学習を行うことができる手立て（導入・発問等の工夫）を研究し，教師の授業力を高めていく。それにより，児童が主体的・対話的な学習の姿となり，効果的な学び合いに発展していくと考える。

３．研究全体構想図

**＜学校教育目標＞**
**「やさしく」「かしこく」　よりよく生きる子の育成**

【めざす児童の姿】

自ら進んで学ぶ子

思いやりのある子

あきらめずにがんばる子

**研究主題**　**主体的に学び合う矢田野っ子の育成**

～確かな力を身に付け、「自ら考え・聴き合い・表現する」力を育む授業を通して～

## 子供が主役となり、目標達成する授業

**確かな力を身に付け、「自ら考え・聴き合い・表現する」力を育む授業づくり**

**（１）系統性を意識し、「つけたい力」を明確にした授業設計の工夫**

・単元構想シートの有効活用
・学習意欲を高める課題の工夫
・つけたい力と単元計画の共有

**（２）ねらいに迫る必要感のある学び合いの工夫**　いしかわ学び＋６条

・発問の仕方や場の設定など、授業展開の工夫
・学び合いワードの有効活用
・ICT の有効活用
**（個別最適、協働的な学び）**

**（３）学びの自覚化の充実**　いしかわ学び＋３条

・学びの足跡が分かるノートづくり
・まとまりごと（１次・１単元など）での振り返り
・つけたい力を視点にした深まりある振り返り（考えの再構築）

生徒指導の三機能を活かした授業づくり
・自己決定　・自己存在感　・共感的人間関係

## 学びを支える基盤づくり

**語彙力と集中力をつける朝学習**
**漢字・計算・活用力をつける矢田野タイム**
**家庭学習の定着と充実**　いしかわ学び＋８条
**聴く・話す力の育成**
**言語環境の整備**　いしかわ学び＋４条

**共感的な人間関係づくり**

**学級活動や道徳教育の充実**
**コミュニケーション能力の育成**
**学校行事の活用**

**学習環境づくり**

**児童の学びの意欲を引き出す教室環境の整備**
**学びの跡が見える校内掲示**

## ４．研究の重点と検証

| | 重点 | 目指す児童の姿 | 研究 | 検証（方法） |
|---|---|---|---|---|
| ① | 系統性を意識し、「つけたい力」を明確にした授業設計 | ・単元のねらいをつかみ、単元の見通しを持って学習を進めることができる。<br>・**単元のゴールを意識して**毎時間、学習を進めることができる。<br>・**つけたい力を共有する**ことができる。 | 授<br>・系統性を意識した単元構想の工夫（単元構想シートの活用） | ・学校アンケート<br>・児童アンケート<br>・検証シート |
| ② | ねらいに迫る必要感のある学び合いの工夫 | ・一人一人が叙述をもとに考えを持った上で、友達と考えを交流していく中で、深めたり、広げたりすることができる。<br>・根拠をもとに課題を解決するために、自分で学びを調整することができる。 | 授<br>・学び合いワードの活用<br>・聴く力を育てる共通実践 | ・児童アンケート<br>・矢田野っ子アンケート<br>・検証シート |
| ③ | 学びの自覚化の充実 | ・自分がその時間に学んだことを書いたり、次に活かしたりしたいことを振り返ることができる。<br>・次や単元末では、「つけたい力」がついたことを実感する振り返りを書くことができる。 | 授<br>・教師が意図したまとまりごとの振り返り | ・ノート等<br>・児童アンケート<br>・検証シート |
| ④ | 学習を支える基礎づくり | ・当該学年までの漢字計算や言葉の使い方を身につけることができる。<br>・粘り強く課題に取り組むことができる。<br>・主体的に聴くことができる。 | 基<br>・聴く・話す力の育成<br>・語彙力と集中力を高める朝学習<br>・漢字・計算・活用力をつける矢田野タイム<br>・生徒指導の３機能を生かした授業づくり<br>・家庭学習の定着 | ・児童アンケート<br>・検証シート<br>・漢字計算検定テスト |

## ５．研究内容（園下校長・竹中教頭・直江・向出・鴻渡・岩脇・塩谷）

### （１） 授業づくり

・学び合いスタイルの充実・・・主体的に学習するための項目ごとの学び合いスタイルの作成
（向出）　定着に向けた呼びかけ

・系統性を意識した単元構想の工夫・・・縦の系統が分かる表の作成、
（岩脇）（向出）　単元構成シートの効果的活用に向けた提案と検証

・学びを深めるワード等の活用・・・学び合いワードの修正と活用に向けた取り組み
（鴻渡）（向出）　学び合いを深める取り組みの検討

・ICT の有効活用・・・定期的に効果があった実践の交流

ミニ研修によるICT学習ツールの紹介

（GIGA推進）　　研究授業等でのICTを活用した視点を取り入れる授業づくり

### （２）基盤づくり

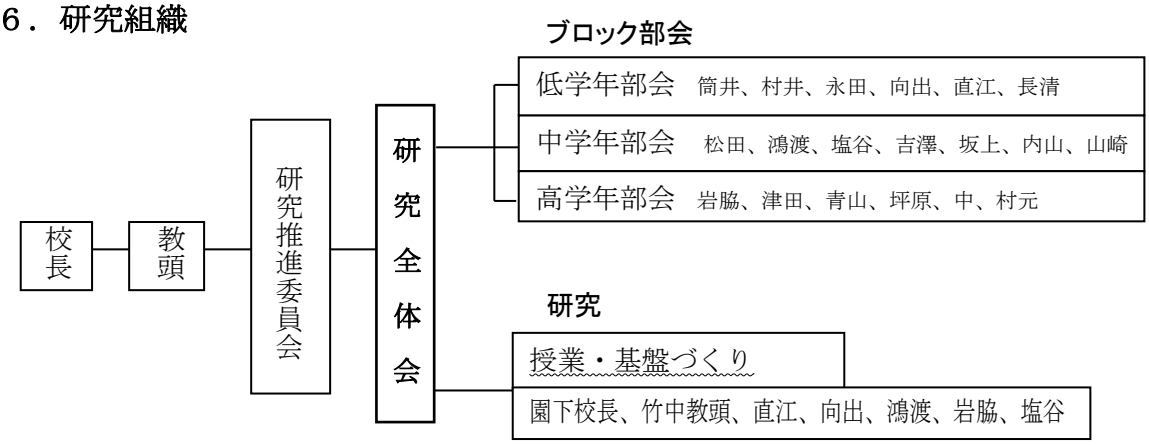
・聴く・話す力の育成・・・矢田野っ子学びのスタイルと併せて指導、集会指導、言葉遣い指導

・語彙力と集中力を高める朝学習・・・朝学習の計画、提案

・漢字・計算・活用力をつける矢田野タイム・・・矢田野タイムの計画、提案
漢字計算検定のコーディネート

・家庭学習の定着・・・１０分×学年の習慣付け、強化週間の取り組み、自学の取り組み方の検討

## ６．研究組織




○研究全体会　　・・・・・授業研究を中心に（事前研･整理会）協議や学習会をし，共通理解の場とする。

○部会　　・・・・・教材研究・指導案の検討・児童の実態把握など

○研究　　・・・・・計画的・継続的な取組の企画立案。

＊研究部，研究全体会，各部会を定例化し，共通理解の場とする。

＊各部会は必要に応じて，校長・教頭・研究主任を加えて研究を行う。

## ７．研究方法

(ア) 研究推進委員が中心となり，各部会の連携を図りながら研究実践を進める。

(イ) 研究全体会では，研究授業や模擬授業，ワークショップ型整理会等を行い，共通理解を図りながら進めていく。

(ウ) 授業研究を中心に実践を進めていく。

★指導案検討（部会）→＊事前授業（部会）→　研究授業→　整理会（部会）
→ふり返り・改善指導案の提示→＊改善授業の実施（部会）

＊は授業者と同じ学年の担任で、どちらか一方行う。

(エ) １人１研究授業（全体研究授業または部会授業）を行い，授業力向上に努める。

## ８．研究計画

| 学期 | 月 | 内　　容 |
|---|---|---|
| 一学期 | 4 | 研究の基本構想の決定・研究授業計画、「矢田野っ子学びのスタイル」「聴く力を育てる共通実践」の共通理解と共通実践 |
| | 5 | 指導案形式の確認　　目指す授業の共有　　授業（６学年）　指導案検討会（４学年） |
| | 6 | 全体研授業（４学年）　6/23 上月先生 |
| | 7 | １学期の検証と改善の検討 |
| | 8 | 校内研修会等・２学期に向けての教材研究・指導案検討会（１・５学年）・検証問題作成 |
| 二学期 | 9 | 授業（２学年） |
| | １０ | 全体研授業（５学年）　授業（３学年）　２学期の中間検証と改善の検討 |
| | １１ | 計画訪問（１学年）　授業（６学年）　上月先生 |
| | １２ | ２学期の検証と改善の検討 |
| 三学期 | 1 | 研究のまとめ作成 |
| | 2 | 今年度の反省 |
| | 3 | 次年度の方向づけ |